

第7回「福島県会津若松市」 一松平家御廟・御薬園一



結核予防会

顧問 島尾 忠男

再度福島へ

今回の結核縁の旅は再度福島へ。目的の第一は、アーカイブ事業を可能にする多額の御寄附を頂いた浅羽俊子さんの墓参。第二は結核と直接関係はないが、日本を代表する医学研究者の一人である野口英世を偲ぶ新装開館した野口英世記念館の訪問。第三は今年薨去されて20年となる結核予防会初代総裁秩父宮勢津子妃殿下に縁の地会津若松。同行は石川結核研究所所長、竹下専務理事に、浅羽さんが新山手病院敷地内の医療マンション“グリーンネスハイム”に居られたところにお世話したご縁のある羽生総合健診推進センター事務部長。

大宮駅に集合し、新幹線で郡山へ。駅でレンタカーを借り、郡山市野田町の広度禅寺に赴き墓参。浅羽さんのことについては本誌No.345（2012年7月号）に紹介してあるので参照されたい。野口英世記念館については石川先生が記載する。

宿泊は妃殿下縁の旧新滝旅館

会津若松での宿泊は旧新滝旅館で、松平勢津子姫が秩父宮殿下と結婚する直前にお国入りされた際に宿泊された施設。その時に宿泊された建物が、松平家の薬草園である御薬園内に移築され、妃殿下が重陽閣と命名され保存されているので、翌日午前に見学することとし、野口英世記念館の副理事長をしておられる竹田美文先生も加わり、東山温泉と会津料理、地元の銘酒を賞味。竹田先生は日米医学協力計画の日本側委員であり、筆者の後を継いで日本側委員長を担当して頂いた方で、旧交を温める良い機会となった。この旅館は石川所長が今年4月に野口英世記念館新装リニューアルオープン式典に招かれ、会津若松に宿泊した際に、新婚旅行の時に泊まった宿であることを思い出し、妃殿下とご縁もあり、会津ならここに泊まろうと選定した経緯がある。

松平家の御廟にお参り

翌日はまず秩父宮妃殿下のご出身母体である会津松平家歴代の御廟に参拝。案内をして頂いた方は、郷土史研究家の佐藤紀子さん。秩父宮妃殿下の乳母をしておられた高橋タカ女に興味を持たれ、研究を進めておられ、平素は御薬園でボランティアとして案内役をしておられる。石川先生が先般会津訪問の際、御薬園を見学した際に熱心に秩父宮妃殿下の記述を見ていたら声を掛けられ、知り合った奇縁で、今回案内役をして頂けることになった。

御廟は丘陵地に作られ高低差がかなりあるので、坂を登った御廟への近道から入ると、まずは8代容敬公かたかかの御廟。手前に亀石に載せた立派な碑石があり、御事蹟を漢文で記載してある。その上方に表石、さらにその奥に鎮石があり、その下にご遺体が埋められてある。続いて4代容貞公かたさだ、3代正容公まさかた、以下歴代の御廟があり、一番奥が妃殿下の祖父である9代容保公かたもりの御廟となっている。2代正経公のお墓だけは仏式で、入り口に近い場所にある。

お墓を守る神獸亀石の亀の容貌は、守る御廟により総て異なるとのこと。

御薬園を訪ね、秩父宮妃殿下を偲ぶ

御廟から御薬園に往き、佐藤さん格別のご配慮で、重陽閣を開いて中の展示資料を拝見させて頂けることとなった。妃殿下お国入りの際の写真が数多く展示されており、それまで朝敵として蔑視されていた会津の方々が、会津復権と喜ぶ様子が詳しく展示され、新滝旅館の対岸の道路では提灯行列も行われた由である。

妃殿下の乳母高橋タカ女

秩父宮妃殿下は、松平容保公かたもりの4男で外交官松平恒雄氏、鍋島家から嫁いだ妻信子さんの長女として明治42（1909）年9月9日に英国で御出生、節子と名付けられた。2歳年上の御長男一郎さんとお二人の面倒を見るために、養育係としてご奉仕するようになったのが高橋タカ女であり、明治44年春のことであった。以下佐藤紀子さんの研究成果に基づいて、その後の高橋タカ女の活動状況を記載する。

その後タカ女は、妃殿下お父上の転勤と共に、北京、天津、ワシントンと異動、大正14（1923）年ワシントンへ赴任の際には、タカ女の長女千江が青山学院を中退して同行した。在勤中に妃殿下のご縁談が決まり、準備のために昭和3（1928）年1月に帰国し、ご婚礼の準備に奔走。9月28日の御結婚を前に、妃殿下はご両親と共に7月26日から4日間会津をご訪問、タカ女もお供。御婚儀を御先祖様に御報告すると共に、会津の方々にお別れをされ、その際宿泊されたのが新滝旅館で、後に重陽閣と妃殿下が命名された建物であった。

御婚儀に先立ち、妃殿下は貞明皇后と同じ名前は畏れ多いということで、9月19日に節子を勢津子と御改名、9月28日に御婚儀が行われた。当日宮内庁から迎えの車が来て、妃殿下が出発された直後に、タカ女は一時気を失ったと言われている。タカ女は長女の千江を女官として妃殿下にご

奉仕させた。

タカ女は昭和14（1939）年3月2日に脳溢血のため死去。享年58歳。松平家での懇ろな葬儀の後、遺骨は故郷会津に戻り、夫誠二郎の墓に葬られた。お墓があるのが会津若松市郊外の千手院伏龍寺、ご本尊は木造の千手観音、境内にはおたか地蔵が祀られている。妃殿下も昭和62（1987）年福島を訪られた際に、お墓とおたか地蔵にお参りしてお

られる。

御薬園からの帰途、伏龍寺へ立ち寄って、妃殿下の忠実な養育係であった高橋タカ女のお墓と、おたか地蔵にお参りして、郡山から帰京した。今回は極めて印象深い結核縁の地訪問であった。タカ女の数奇な生涯については、別な機会に譲りたい。



九代藩主松平容保墓所の写真



秩父宮妃殿下の祖父九代容保公の御廟



松平容保公の碑石



御薬園内に移築された重陽閣



御薬園内の薬草とともに



御薬園内の石碑



おたか地蔵前にて 右は佐藤紀子さん



高橋たか女のお墓とおたか地蔵を妃殿下が参拝された祈念碑